

複式3・4年社会科学学習指導案

3年 男子3名 女子2名 計5名
4年 男子2名 女子4名 計6名
指導者 貴島 由香

- 1 単元 3年「はたらく人とわたしたちの暮らし」 小単元「農家の仕事」
4年「きょう土を開く」 小単元「製糖改善に一生をささげた のぼりぜんよし昇善庸志」

2 小単元について

(1) 小単元の位置とねらい

(第3学年)

子どもたちは、前小単元で、スーパーマーケットで働く人々の様子を見学したりそこで働く人にインタビューしたりする活動を通して、販売の仕事の特色やそれらが自分たちの生活を支えていること、販売の仕事に携わる人々が販売の仕事の特色に応じ他地域などとの関わりをもちながら、さまざまな工夫や努力をしていることを学習してきている。このような学習を通して、子どもたちは、他の仕事に携わっている人々は、どのような工夫しているのだろうと関心をもち、問題を追究したいという意欲が高まってきている。

そこで本小単元では、自分たちの住む地域のさとうきび農家の人々の仕事について追究する活動を通して、生産の仕事に携わっている人々の工夫を捉えさせる。さらに、見学や聞き取り調査をしたり、白地図にまとめたりする活動を通して、さとうきびが笠利地区の産業として地域に根ざしており、自分たちの生活を支えていることやさとうきびを通して他地域とも関わりがあることを考えられるようにし、地域の一員としての自覚を育てていくことをねらいとしている。

このような学習は、地域社会における災害及び事故の防止について調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きと、そこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考える学習へと発展していくものである。

(第4学年)

子どもたちは、第3学年で、古くから残る道具や文化財等について、見学したりインタビューしたりする活動を通して、過去の生活における人々の知恵や工夫に気づき、地域の人々の生活の変化や人々の願いを考えるとともに、地域の変化や地域社会の発展を願ってきた人々の生き方について学習してきている。このような学習を通して、子どもたちは他にも地域の人々の生活を向上させた働きがあるのではないかと関心をもち、問題を追究したいという意欲が高まってきている。

そこで本小単元では、地域の産業の発展に尽くした先人の一人であり、製糖技術の改善と普及に努めてきた「昇善庸志」の働きについて追究する活動を通して、地域の発展に貢献してきた人々がよりよい生活を求めて努力したことや、これらの先人の働きや苦心によって地域の人々の生活が向上してきたことなどを捉えさせる。さらに、見学、調査したり、年表にまとめたりする活動を通して、地域の発展に対する先人の願いや工夫・努力、苦心、地域の人々の生活の向上について考えられるようにし、自分たちの住んでいる地域社会に対する誇りと愛情を育てていくことをねらいとしている。

このような学習は、県内の特色ある地域の人々の生活について調べ、自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用しながら、人々が互いに協力して特色あるまちづくりや産業の発展に努めていることを考える学習へと発展していくものである。

3 児童の実態

第3学年（調査日時：平成24年10月5日 人数5名）	第4学年（調査日時：平成24年10月5日 人数6名）
1 社会科学習について	1 社会科学習について
① 写真などの資料を見て、調べたいことを見付けることができるか。 できる（0名）だいたいできる（5名）あまりできない（0名）できない（0名）	① 写真などの資料を見て、調べたいことを見付けることができるか。 できる（0名）だいたいできる（3名）あまりできない（3名）できない（0名）
② 調べ学習の時、どんな方法で調べているか。（複数回答） 教科書(5名) 資料集(5名) パソコン(5名) インタビュー(3名) 見学(5名) 図書室の本(2名) パンフレット(0名)	② 調べ学習の時、どんな方法で調べているか。（複数回答） 教科書(6名) 資料集(6名) パソコン(6名) インタビュー(6名) 見学(6名) 図書室の本(0名) パンフレット(1名)
③ 調べたことをまとめるときどのような方法でまとめることができるか。（複数回答） 壁新聞(4名) 地図(4名) 新聞(1名) ポスター(1名)	③ 調べたことをまとめるときどのような方法でまとめることができるか。（複数回答） 新聞(6名) ポスター(3名) 地図(3名) 劇(2名) 壁新聞(2名) パンフレット(1名)
2 農家の仕事に関すること	2 先人に関すること
① 家族や親戚で、さとうきびを作っている人はいるか。 いる（3名）※3名とも祖父母 いない（2名）	① 宇宿出身で有名な人について知っているか。 知っている（1名）松田宝蔵・・・校歌を作詞した人 知らない（5名）
② さとうきび作りの手伝いをしたことがあるか。 ある（1名） 仕事内容…さとうきびを植える仕事 ない（4名）	② 昇 善庸志を知っているか 知っている(0名) 聞いたことがある(0名) 全く知らない(6名)
③ さとうきびをつくるとき、どんな工夫をしているのか。（複数回答有） スプリングラー（2名） 葉をまく（1名） トラクター（1名） 無回答（2名）	③ 奄美の特産物について（複数回答有） さとうきび(4名) 鶏飯(1名) マンゴー(1名) 芋(1名) ポンカン(1名) 黒糖(1名)
④ かりとった後のさとうきびについて（複数回答有り） 富国製糖へ(4名)→砂糖（3名） 黒糖（1名） 焼酎（1名） 無回答（1名）	④ 黒糖は、どうやって作られるのか。 さとうきびから作る（2名） さとうきびをしぼって作る（1名） 無回答（3名）
3 ガイド学習に関すること	3 ガイド学習に関すること
① ガイド役がうまくできるか。 できる(0名) だいたいできる(3名) あまりできない(2名) できない(0名)	① ガイド役がうまくできるか。 できる(0名) だいたいできる(3名) あまりできない(3名) できない(0名)
② 自分たちで学習を進めることができるか。 できる(0名) だいたいできる(5名) あまりできない(0名) できない(0名)	② 自分たちで学習を進めることができるか。 できる(0名) だいたいできる(3名) あまりできない(3名) できない(0名)
<p>《考察》</p> <p>1より、子どもたちは、写真や資料から調べたいことを見付けることができ、様々な方法で調べ活動をしていることが分かる。また、ほとんどの子が調べたことを壁新聞や地図にまとめることができると答えている。まだ、まとめ方の種類は多くはないが既習でしたことに関しては自信をもっていることが分かる。しかし、一人でまとめることが難しい子もいるため、ペアやグループで考えをまとめる活動を取り入れながらまとめる力を更に付けていきたい。</p> <p>2より、さとうきび作りをしている人が身近にはいるが、仕事を体験した子が少ないことが分かる。そのため、仕事の工夫についてもあまり知らない。そこで、農家の人にインタビューする機会や畑を見学する時間を設け、いろいろな視点から工夫を捉</p>	<p>《考察》</p> <p>1より、写真や資料から調べたいことを見付けることができないと答えている子が3名いるが、3名中2名は、見つけるのも早くよく発表している。しかし、もう1名は、一人では難しいので、ペアや一斉で友達の意見を参考に考えさせるようにする。また、子どもたちは、様々な方法で調べたりまとめたりすることができることが分かる。今回は、紙芝居にまとめさせることで、人物の気持ちを捉えさせつつ、まとめ方の幅も広げていきたい。</p> <p>2より、子どもたちは、宇宿の先人についてほとんどの子が知らず、昇善庸志については、誰も知らなかった。また、奄美の代表的な産業として、「さとうきび」をあげているが、さとうきびから黒糖をどうやって作るのかについては、ほとんど知らな</p>

えさせるようにする。また、製糖工場へ運ばれ、商品化されていることは知っている
ので、その後、どこへ行きどうなるのかも追究させたい。

3より、2名の子がガイド役に少し不安を感じていることが分かる。そのため、事
前の打ち合わせや進行表の作成など見通しをもって進められるように工夫していく。
しかし、子どもたちは、間接指導時に自分たちで学習を進められるようになったと自
信をもちつつあるので、更に、友達と自分の意見を比較しながら話し合いを深めていけ
るように、より充実した話し合い活動を目指していきたい。

い。そこで、黒糖が先人の働きによって奄美の大きな産業となっていることを昇善庸
志の働きを通して捉えさせたい。また、今と昔の作り方の違いを予想させたり黒糖作
りの大変さを実感させたりするために、体験活動を取り入れたい。

3より、間接指導時の学習に不安を感じている子どもが半分いることが分かる。そ
のため、ガイド役との打合せ・進行表の作成、学習の進め方などを掲示し、見通しを
もって学習が進められるように工夫する。また、友達と自分の意見を比較しながら考
えを深めていく話し合い活動が少しずつ充実してきているので、理由や根拠も明確にさ
せながら、より充実した話し合い活動を目指していきたい。

4 小単元の目標

(第3学年)

地域には農作物の生産にかかわる仕事があり、自分たちの生活を支えているこ
とやこれらの仕事に見られる特色、他地域などとの関わりなどを理解するとともに
、農家の仕事と自分たちの生活との関わりを考えようとするができる。
また、地域の農家の仕事の様子から学習問題を見だし、見学や資料を活用する
などして具体的に調べて分かったことを白地図や作品にまとめるとともに、農家
の仕事と自分たちの生活とのつながりについて考えたことを適切に表現すること
ができる。

(第4学年)

製糖技術の改善・普及に尽くした先人の働きや苦心によって地域の人々の生活が
向上したことを理解するとともに、先人の努力によって発展してきた地域に誇りや
愛情をもち、そのよりよい発展について考えようとするができる。

また、製糖技術の改善・普及に尽くした先人の碑から学習問題を見だし、その
足跡を見学、調査したり年表などの資料を活用したりして調べ、年表や白地図、紙
芝居などにまとめるとともに、地域の人々の願いや努力と製糖技術の改善・普及に
尽くした先人の働きや苦心と関連付けて考え、適切に表現することができる。

5 評価規準

- (1) 地域の農家の仕事の様子に関心をもち、意欲的に調べようとするとともに、農
家の仕事と自分たちの生活との関わりを考えようとしている。

(社会的事象への関心・意欲・態度)

- (2) 地域の農家の仕事の様子について、学習問題や予想、学習計画を立てるととも
に、農家の仕事の工夫を自分たちの生活と関連付けて考え適切に表現している。

(社会的な思考・判断・表現)

- (3) 調べる観点に基づいて見学したり資料を活用したりして、農家の仕事の様子に
ついて必要な情報を集めて工夫を読み取り、分かったことを白地図や作品などに
まとめている。

(観察・資料活用の技能)

- (4) 地域には農作物の生産に関わる仕事があり、自分たちの生活を支えていること
や、農家の仕事に見られる特色や他地域との関わりを理解している。

(社会的事象についての知識・理解)

- (1) 昇善庸志の働きに関心をもち、意欲的に調べるとともに、先人の努力によって
発展してきた地域に愛着をもって、地域社会のよりよい発展を考えようとしてい
る。

(社会的事象への関心・意欲・態度)

- (2) 昇善庸志の働きについて、学習問題や予想、学習計画を立てるとともに、地域
の人々の生活の向上には、人々の願いやそれを実現するための努力、昇善庸志を
はじめとする先人の働きや苦心があったことを考え、適切に表現している。

(社会的な思考・判断・表現)

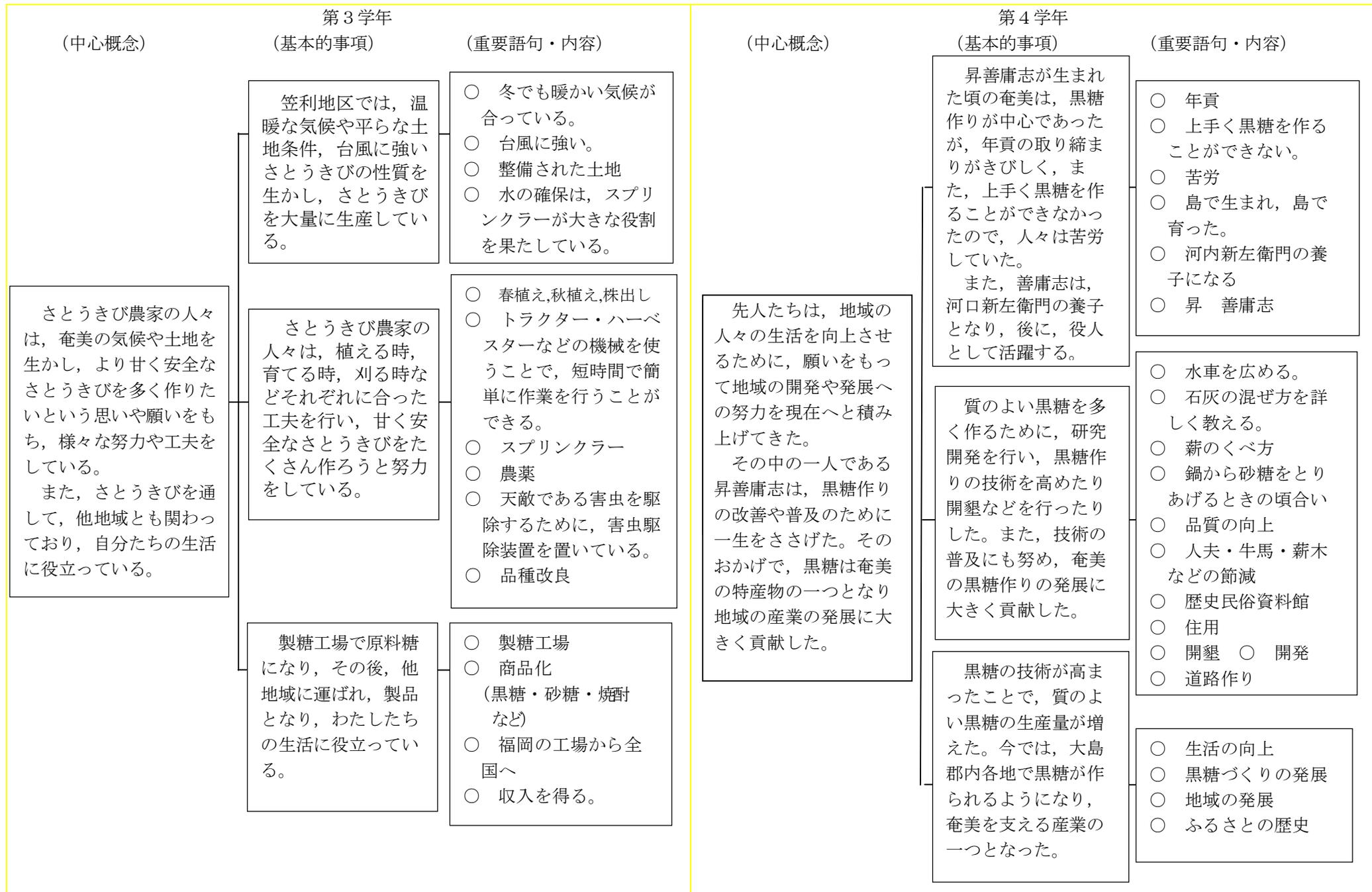
- (3) 博物館の見学・調査、地域の人への聞き取り、年表その他の資料の活用を通し
て必要な情報を集め、昇善庸志の働きや苦心を読み取って、年表や白地図、作品
などにまとめている。

(観察・資料活用の技能)

- (4) 製糖技術の改善・普及に尽くした昇善庸志をはじめとする先人の働きを理解す
るとともに、地域の人々の生活の向上が人々の願いや努力、先人の働きや苦心に
よるものであることを理解している。

(社会的事象についての知識・理解)

6 小単元の構造



7 指導計画
(第3学年)

(第4学年)

指導上の留意点	主な学習活動	時	指導の傾斜	時	主な学習活動	指導上の留意点
	<p>※前単元のまとめ</p>				<p>1 昇善庸志の墓や顕彰の碑を見て気付いたことや疑問に思ったことを話し合う。 2 学習問題を設定し、学習計画を立てる。 (1) 学習問題を設定する。 昇善庸志は、なぜ、黒糖作りに取り組んだのだろうか。</p> <p>1 ・ 2 追究の柱1 当時の人々のくらしは、どんな様子だったのだろうか。 追究の柱2 昇善庸志のどんな努力や工夫によって、黒糖づくりは、どう変わっていったのだろうか。 追究の柱3 黒糖作りが発展して人々のくらしは、どう変わったのだろうか。</p>	<p>○ 子どもたちに問題意識をもたせるために、以下の具体物を準備する。 ① 昇善庸志の墓の写真 ② 顕彰の碑の写真 ○ 追究の柱を考えさせるために以下の資料を準備する。 ① 追究の柱1 ・当時のくらしの写真 ② 追究の柱2 ・黒糖の生産量のグラフ ③ 追究の柱3 ・産地の違う黒糖の袋 (笠利・名瀬・喜界・徳之島)</p>
<p>○ 仕事の大変さを実感させたり刈った後のさとうきびの行方に関心をもたせたりするために、体験を行う。</p>	<p>1 さとうきび刈りから黒糖作りまでの体験を行う。 ※ 総合的な学習の時間「作物を育てよう」と併せて行う。(社会2, 総合2)</p>	1 ・ 2		3 ・ 4	<p>3 さとうきび刈りから黒糖作りまでの体験を行う。 ※ 総合的な学習の時間「作物を育てよう」と併せて行う。(社会2, 総合2)</p>	<p>○ 今と昔の作り方の違いの予想を立てたり、黒糖作りの大変さを実感させたりするために、昔の黒糖作り体験を行う。</p>
<p>○ 子どもに問題意識をもたせるために、以下の提示資料を準備する。 ① 笠利地区の写真 ② さとうきびの実物 ③ さとうきび生産量のグラフ ○ 追究の柱を考えさせるために以下の資料を準備する。 ① 追究の柱1 ・笠利地区の上空写真 ② 追究の柱2 ・さとうきびの育て方カレンダー</p>	<p>2 体験や実物、グラフをもとに、気付いたことや疑問に思ったことを話し合う。 3 学習問題を設定し、学習計画を立てる。 (1) 学習問題を設定する。 笠利地区では、どのようにして、さとうきびをたくさん作っているのだろうか。また、収穫したさとうきびは、どうなるのだろうか。</p> <p>(2) 学習問題について予想を立てる。 (3) 追究の柱・学習計画を立てる。 追究の柱1 さとうきび作りがなぜ笠利地区でさかんなのだろうか。 追究の柱2 さとうきび農家の人たちは、どんな工夫を何のためにしているのだろうか。 追究の柱3 収穫したさとうきびは、どうなるのだろうか。</p>	3		5	<p>4 当時のくらしの様子について調べる。 (1) 資料集などで調べる。</p>	<p>○ 人々のくらしの様子や変化と昇善庸志の働きを分かりやすく整理するために、年表にまとめさせる。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ○ 温暖な気候に適していると感じさせるために、生産量の多い県に色を塗らせる。 ○ 風に強いことに気付かせるために、台風時のVTRを用意する。 	<p>4 さとうきび作りがなぜ笠利地区でさかんなのかについて調べる。</p> <p>笠利地区では、温暖な気候と整備された土地を生かし、さとうきびを生産している。また、さとうきびは、風に強いので、台風の多い奄美には合っている。</p>	4			<p>(2) ゲストティーチャーに話を伺う。</p> <p>昇善庸志は、黒糖を年貢として納めなければならなかったが、よい黒糖ができずに苦労していた時代の奄美に生まれ育った。後に河口新左衛門の養子となり、役人として活躍する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先人をより身近に感じてもらう、更なる追究意欲を高めるために、子孫の方に、善庸志の生い立ちや当時の暮らしについて話をしてもらう。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 虫から守る工夫に気づかせるために、害虫駆除用の機械を準備する。 	<p>5 さとうきび農家の人たちは、どんな工夫をしているのか調べる。</p> <p>(1) 害虫駆除について調べる。</p>	5		7	<p>5 黒糖を作るためにどのような努力や工夫していたのか調べる。</p> <p>(1) 薪の燃やし方について調べる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 再現による調べ方を学ばせるために、予想をもとに再現させて調べさせる。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 刈り取る時の工夫に気づかせるために、VTRや写真、実物などを用意する。 	<p>(2) 刈り取る時の工夫について調べる。</p>	6 本時		8 本時	<p>(2) 調べたことを発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理解を深めるために、発表を聞き合い、工夫の理由と善庸志の思いを考えさせる。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 追究意欲を高めるために自分が調べたい工夫について調べさせる。 	<p>(3) その他の工夫について調べる。</p>	7		9	<p>(3) 燃やし方の工夫以外について調べる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 追究意欲を高めるために、自分が調べたい工夫について調べさせる。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 知識を広め、理解を深めるために、お互いの発表を聞き合い話し合わせる。 	<p>(4) 調べたことを発表し合う。</p>	8		10	<p>(4) 調べたことを発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知識を広め、考えを深めるために、お互いの発表を聞き合い話し合わせる。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習したことを整理して理解できるようにするために、生産までの過程をこの時間でまとめさせる。 	<p>(5) これまで調べてきたことをまとめる</p> <p>安全でおいしいさとうきびをたくさん作るために、植える・育てる・刈る時にいろいろな工夫をしながら育てている。</p>	9		11	<p>(5) 追究の柱2のまとめをする。</p> <p>善庸志の工夫や努力によって、よい黒糖がたくさん作られるようになった。また、奄美大島の各地で指導をし、黒糖の作り方を広げていった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 善庸志の働きについてとらえさせるために、努力や工夫を行った結果などについて話し合わせる。
<ul style="list-style-type: none"> ○ さとうきびは、原料や加工品にして販売することを理解しやすくするために、経路図を書かせる。 	<p>6 さとうきびがどのようにして私たちの手に届くのか調べる。</p> <p>さとうきびは収穫したら、福岡などの工場に運ばれ、買った人に喜ばれるように加工されて売られている。</p>	10		12	<p>6 黒糖作りの発展による人々の暮らしの変化について調べる。</p> <p>善庸志の工夫により、黒糖の生産量が増え、今では奄美の特産物となり、町も発展させてきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 暮らしの変化が分かるように黒糖の生産量と人口の変化が分かるグラフを提示する。
	<p>※ 時数調整</p>			13	<p>7 これまで学習してきたことを年表にし、砂糖作りについて自分の思いや考えをまとめ、発表する。</p> <p>黒糖作りを盛んにしてきた人々の思いを大切に、これからも、さとうきび黒糖を守っていききたい。そして、まちの発展について自分たちも考えていききたい。</p> <p>8 学習のまとめをする。</p> <p>昇善庸志は、人々の生活もよくしようと黒糖作りに取り組んだ。その結果、よい砂糖がたくさん作れるようになり、奄美・沖縄の黒糖作りを発展させた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の思いや考えを深めるために、作成してきた年表に、事実だけではなくその時の先人の思いなどを書き込ませる。 ○ 先人の努力によって発展してきた地域に愛着をもち、その発展を考えさせるために、自分の考えも発表させる。 ○ 地域に愛着と誇りをもたせるために、宇宙出身の昇善庸志の功績を振り返り、産業の発展に大きな役割を果たしたことを確認する。

<p>○ これからの農業についての自分の考えを表現しやすくするために、これまでの学習を振り返らせる。</p> <p>○ より自分の考えを深めるために、友達の考えと比較しながら聞けるようにメモをさせる。</p>	<p>7 学習問題のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>笠利地区でさとうきびがたくさんとれるのは気候や土地の様子に合っており、さらに、農家の人々がいろいろな努力や工夫を重ねているからである。また、収穫したさとうきびは加工されて売られ私たちの生活を支えている。</p> </div>	11		14	<p>9 学習したことを紙芝居にまとめ発表する。</p>	<p>○ 善庸志の業績をより多くの人に知ってもらうために、紙芝居にまとめ、全校児童の前で発表する時間を設ける。</p>
<p>○ さとうきびの大切さをさらに実感させるために、自分たちにできることを考えさせる。</p>	<p>8 「さとうきび応援隊」として、自分たちにできることを考え、それを農家や製糖工場の方々へ送付する</p>	12			<p>※ 次小单元へ</p>	

8 本時（3年 7 / 12 4年 8 / 14）

(1) 目標

<p>農家の人たちが早くたくさんさとうきびを刈り取るための工夫について、資料やグラフ、インタビューなどで調べ、ハーベスタを使ったり、支え合いながら仕事をしたりしていることを捉えることができる。</p>	<p>昇善庸志が薪の燃やし方を工夫したことで、黒糖作りがどう変わり、人々のくらしはどう変わったのかについて調べ、分かったことを基に話し合い、昇善庸志の働きについて捉えることができる。</p>
--	---

(2) 指導に当たって

ア 間接指導時に、子どもたちが自分たちだけで学習を進めることができるようにするために、ガイド役の子どもと進行表や学習の進め方を確認しながら、十分な打合せをしておく。また、今回ガイドをしない社会科のガイド役の子も交えて打ち合わせをすることで、より自信をもって進行できるようにしておく。

【視点3 「ガイド能力」の育成】

イ 間接指導時の話し合い活動を充実させるために、3年生では調べたことを付箋に書かせた後、仲間分けをして見出しを考えさせることで、ハーベスタを使う大事なキーワードを出させるようにする。4年生では、学習のめあてに対するまとめをペアで話し合わせ、ホワイトボードに記入後、全体で話し合い、大切なキーワードを見つけさせていく。そのキーワードを使って自分たちでまとめられるようにしていく。

【視点3 話し合いを充実させるための工夫】

ウ 複式学級のよさを生かすために、授業の最後に感想の交流をさせる。お互いの学習内容に触れることにより、4年生は復習になり、3年生は、未習事項への意欲を高めることができる。と考える。

【視点4 異学年交流の場の設定】

(3) 展開

指導上の留意点	主な学習活動 (第3学年)	週	位置/時間	週	主な学習活動 (第4学年)	指導上の留意点
<p>④ 写真</p> <p>(手刈りの様子・手刈りの道具)</p> <p>○ 追究意欲を高めるために、自分たちの経験を想起させ、道具が工夫されている、手作業は大変だということを確認する。</p>	<p>1 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <p>農家の人は、さとうきびを早くたくさん刈取るために、どんな工夫をしているのだろう。</p> <p>2 めあての予想をたてる。</p> <p>3 学習の進め方を確認する</p>	つ	10分	つ	<p>1 本時の学習のめあてを確認する。</p> <p>善庸志は、どうして、まきのもやし方を工夫したのだろう。</p> <p>2 学習の進め方を確認する。</p>	<p>④表 (黒糖作りの順番が分かるもの)</p> <p>○ 学習の見通しをもたせるために、学習の進め方を提示する。</p>
<p>④ VTR, ハーベスタ写真と網</p> <p>○ ハーベスタがどういうものか理解させるために、VTRを見せる。再度見たい場合は、自分達で操作して見ていいこととする。</p> <p>○ 調べ学習をスムーズに行わせるために、一人→ペア・グループの順で調べさせる。</p> <p>○ 調べたことをまとめやすくするために、工夫は付箋にも書かせる。</p> <p>○ 仲間分けしやすくするために、同じ内容の付箋は重ねて貼らせる。</p> <p>○ 学習のまとめへとつなげるために、仲間分けしたグループに見出しをつけさせる。</p>	<p>4 かり方の工夫について調べる。</p> <p>(1) VTRを見る。</p> <p>(2) 「のびゆく奄美市」で調べる。</p> <p>手作業で頑張っている人もいるんだあ。大変だろうなあ。</p> <p>ハーベスタって、芽や葉もとってくれるんだ。広い畑でも簡単に刈れるね。</p> <p>(3) 調べた工夫を仲間分けし、見出しをつける。</p> <p>見出しは、「早く」「たくさん」「楽に」でいいね。</p> <p>(4) グラフについて話し合う</p> <p>ほとんどの人がハーベスタで刈っているのに、持っている人は3人? どうやって刈っているのかな?</p> <p>(5) 電話インタビューをする。</p> <p>ハーベスタは、高く買えない。だから、持っている人が刈る仕事をやってくれているんだね。お互いの思いがあって、支え合っているんだなあ。</p> <p>5 調べたことを話し合う。</p> <p>たくさんのさとうきびを早く刈ることができるようになったので、農家の人は本当に助かったと思います。</p>	調			6分	調
<p>④ グラフ (さとうきび農家と機械を持っている農家の数、手刈と機械で刈っている畑の面積)</p> <p>○ ハーベスタの数とハーベスタで刈っている畑の面積の矛盾に気づかせるために、グラフを提示する。</p> <p>○ 「ハーベスタを持っている人は少ないのに、どうやって機械で刈っているのだろう。」という疑問を解決させるために、電話インタビューをさせる。(ハーベスタを所有している方へ)</p> <p>○ 農家の人の思いに迫らせるために、ハーベスタを使うようになって農家の人がよかったことについても発表させる。</p>	<p>6 本時の学習のまとめをする。</p> <p>農家の人は、早くたくさんさとうきびを刈るために、ハーベスタを使っている。また、支え合いながら仕事をしている。</p> <p>7 感想を書いて発表する。</p> <p>8 次時の学習について確認する。</p>	る	7分	る	<p>4 考えをまとめる。</p> <p>(1) 発表・話し合いの結果をまとめる。</p> <p>少ない薪でおいしい黒糖が作れるように、薪の燃やし方を工夫したと思います。</p> <p>おいしい黒糖を作ると、高く買ってもらえるので、自分たちの分の黒糖が残り、くらしがよくなったんじゃないかと思います。</p> <p>(2) 善庸志の思いについて話し合う。</p> <p>苦しい生活をしている人々において、おいしい黒糖を作ってもらったことで、少しでもくらしを向上させたかったんだろうな。</p>	<p>○ 考えを深めさせるために、ペアで話し合い、話し合ったことをホワイトボードに書いて発表させる。</p> <p>○ 学習のまとめを自分たちで考えさせるために、発表で同じキーワードや大切なキーワード等を発表させ、赤線を引かせる。赤線のキーワードが本時の学習のまとめへとつなげるようにする。</p> <p>○ 善庸志の思いを捉えさせるために、くらしの変化を中心に、善庸志の思いについてみんなで考えさせる。考えたことは、年表に書き込ませる。</p>
<p>○ 学習したことを確認するために、見出しを使って自分のまとめを考えさせ、その後、全体のまとめをする。</p> <p>○ 意欲を高めるために、他に調べたことと思ったことも感想に書かせる。</p> <p>○ 次時につなげるために、他に工夫がないか投げかける。</p>		ま	3分	ま	<p>5 本時の学習のまとめをする。</p> <p>善庸志は、少ない薪でおいしい黒糖を作ろうと燃やし方を工夫した。それによって、人々の生活を向上させたかった。</p> <p>6 感想を書いて発表する。</p> <p>7 次時の学習について確認をする。</p>	<p>○ 学習したことをまとめるために、キーワードを使って自分たちの言葉でまとめさせる。</p> <p>○ 次時につなげるために、自分たちで作った黒糖を食べさせ、苦い原因について予想させる。</p>

(4) 評価

<p>農家の人たちが早くたくさんさとうきびを刈取るための工夫について、資料やグラフ、インタビューなどで調べ、ハーベスタを使ったり、支え合いながら仕事をしたりしていることを捉えることができたか。</p>	<p>昇善庸志が薪の燃やし方を工夫したことで、黒糖作りがどう変わり、人々のくらしはどう変わったのかについて調べ、分かったことを基に話し合い、昇善庸志の働きについて捉えることができたか。</p>
--	--